

2018-05-25(金)

人と環境に優しいビオホテルに泊まる

前から行ってみたいと思っていたその小さなホテルに、
ゴールデンウィークの休みを使って旦那さんと2人で行ってみた。

毎年12月にやっている環境展、エコプロ展で「[八寿恵荘](#)」のことを
知り、行ってみたいと思っていた。長野県北安曇にあり、カモミール畑が
有名で、環境負荷の低減に拘ったコテージみたいな宿だ。[ビオホテル認証](#)
を取得している。ビオホテル認証は、飲食物、備え付けの石けん、
シャンプー、コスメなどのアメニティが認証基準に達していて
かつ、CO2排出量削減の取り組みをしているホテルに付与される。

インターネットで宿泊予約して車で行く事にした。
本当は移動手段もエコでありたいが、そのホテルは最寄駅から車で
20~30分かかる。しかも町の中心地から少し離れた標高の高い
場所にある。1泊2日で行って、多くの時間をホテルで過ごした。

地元産の無垢の木材を使って作ったという、内装の木が印象的だった。
飲み物の自動販売機がなく、部屋には電気ポットや冷蔵庫がない。
チェックインの時にはカモミールティーがふるまわれ、部屋には
焙じ茶の入った卓上ポットが置かれていた。

食事は敷地内にある自社農園で育てた有機野菜を始め、BIO 認証基準
をクリアした食材を使って作られる。また、薪を割って羽釜でご飯を炊く
体験をした。薪割りは結構大変だった。丸太をなたを振り上げて割る。
割り箸1膳くらいの大きさまで割ってようやく使える。食事の量は
私にはちょうど良かったけど、観光旅館の品数豊富で豪華な食事に
慣れている人は、物足りないと感じるかもしれない。

テレビはないけど Wi-Fi が使えた。オーガニックコットンの寝具カバーは
心地良いけれど、羽毛布団に慣れているので綿の掛布団は重たかった。
旦那さんは、どっちが敷布団かわからないと言っていた。エコライフは
心地良い反面、面倒くさい。旅行という非日常で体験するから全てが
新鮮で楽しいけど、これが日常だと“しんどい”かもしれない。



左:宿泊した部屋 / 右:羽釜でご飯を炊く

著者: minima
アラフォー女子。グリーンコンシューマー東京ネット
会員。この連載をまとめた電子書籍
[「エコな買物がしたい」](#)がアマゾンにて販売中。